# とよなか環境 ニュースレター

発行：NPO法人とよなか市民環境会議ｱｼﾞｪﾝﾀﾞ21
編集責任者：奥野　享
事務局：豊中市環境情報サロン内
〒561-0804　豊中市曽根南町1-4-3
Tel　06-6863-8792　Fax 06-6863-8734


この号のハイライト


P.1環境展インタビュー／P.2羽鷹池クズ刈、タンポポ調査／P.3学校給食／P.4～P.5環境展特集／P.6カレンダー学習会、企画屋ウォーク／P.7環境政策室／P.8企業の社会的責任



２００６年（平成１８年）３月号　NO.１４　（通巻第32号）


# 環境展2005新鮮なエネルギーがいっぱい

昨年末１２月２日、３日に開いた「とよなか市民環境展２００５」は、１８００人の来場者があり、盛会のうちに終わることができました。昨年と比べ特徴的なのは、若いボランティアの参加が得られたことです。その新鮮な息吹に応えたいと協力いただいた皆さんにインタビューを試みました。（奥野享）

## 子ども達の元気に応え

**大阪産業大学　石川雅史さん**

「大学のエコラボ委員２０人で来ました。市民の方の一生懸命なのを力強く感じました。たくさんの子ども達に、僕たちも頑張っていく力をもらいました。呼んでいただけたら来年も来ますよ」――屋外ではソーラーカーを走らせたり、屋内ではＵＶビーズ（紫外線を受けると青く光る）の腕輪づくりなどが子どもの人気を集めていた。

## 上野坂第四公園が変身！

**自然部会　數本圭一さん**

「かつて上野坂近辺は島のように孤立した自然度の高い緑地でした。その“失われた生き物環境”を少しでも取り戻すため地元で議論を深め、ボランタリーでの作業も楽しみながらビオトープ造りをはじめています」と語る。

パネルになっているイメージスケッチは、子ども達にも親しめるようにすてきに描かれていた。

## あっという間の２日間

**事務局スタッフ　瀬島奈保子さん**

「環境展のスタッフとして走り回るのは初体験。あれよあれよと言う間に２日間が過ぎてしまいました」と言うのがホンネだろう。アクア文化ホールで小学生の環境学習発表会の進行を受け持ったり、２日目は寒い中でソーラーカーの試走につき合ったりしてもらい、環境展の全体をゆっくり見る時間もなかったでしょう。ごめんなさい。

## 5分間の紙芝居で交流

**Ｒびんプロジェクト　林田恵子さん**

空きビンの再使用をスローガンに以前からこつこつと運動を続けている。子ども向けに５分間の紙芝居をやっていたら「観客の子どもが『私にもやらせて』と言うんです。子どもにやってもらって私は初めて観客になりました。元気な子どもがいっぱい来ていて楽しいですねえ」――子ども達に負けない元気な話しぶりであった。

## みなさん、ありがとうございました

とよなか市民環境展は、市民・事業者・行政が一緒に作り、多くの市民が来場してお互いに学びあうことを重視しています。今では豊中市の内外を問わず、子どもからおとなまで、あらゆる年齢層の方が運営する側・参加する側に入り混じって２日間のイベントを作り上げています。どんな形ででも参加することによって、環境について具体的に考え行動することにつながればいいなと思っています。来年度は皆さんもこの輪に入ってみませんか？

**事務局長　井上和彦**

## ドカンと2mのロール

**西日本衛材　柿屋龍生さん**

「環境展への出展は５回目でしょうか」と語っていた。西日本衛材株式会社と書いた名刺をもらう。住所は兵庫県龍野市。遠くから来てくれただけでもありがたい。特に目を引いたのは２㍍余の長～いトイレットペーパーのロール。これが１２個に切断されて製品に。紙のリサイクルで懸命に頑張っている現場が身近に感じられた。

# 自然部会　羽鷹池のクズ刈りに参加して

１２月１２日、朝９時半。気温７℃。すき通る冬の青い空寒い朝だった。羽鷹池はモノレール少路駅の北側上池下池合わせて周囲５００m位の静かな池である。中国自動車道で山や田畑が分断されてもしばらくは豊かな自然に恵まれた豊中の中でも屈指の里山だった。

この地が開発される話が出て来たとき、地元の人や

生物同好会、羽鷹池を守る会の人達がたびたび会合を開き市当局に池を保存するよう申し入れた。結果的には下池の半分以上は埋め立てられたが、かろうじて現在のような形で残すことはできた。しかしすばらしい景観は見る影もなく、わずかに下池の北西と両池の間に雑木を残すのみとなった。

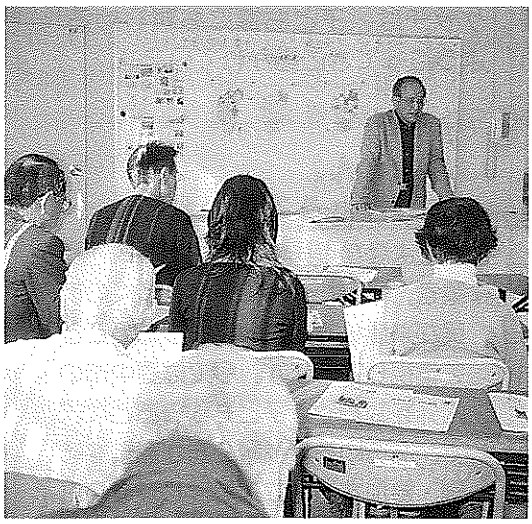
池の周りはフェンスで囲まれ通常は入れない。道路沿いのフェンス越しにごみ袋や空き缶が投げ込まれ散乱している。公徳心の欠如を嘆きながら、まず清掃。クズは池の水際から斜面一面に密生し、強大な伸長力で木にまとわりつき２０mは伸びているだろうか。つるを切らなければ木は枯死してしまう。つるを三人がかりで引っ張って切るのに苦労する。皆の懸命な努力で木の下もしだいに明るく、斜面も広々となっていく。

クヌギの大木の下一面に実生のクヌギが芽生えて伸びている。子孫を残そうとする生命力に改めて感動した。作業を終えてお互いの衣服をみるとアレチヌスビトハギの種子で全身モザイク模様。まるで立体絵画の造形芸術というべき見事なもの。この種子を剥ぎ取るのに一苦労。このようなクズ刈りは子ども達や近隣の方々も参加してもらいたい。自然にふれることで環境保全に関心を持ち、豊かな自然を育てていきたいと感じた。

（川並清忠）

# タンポポ調査・豊中の報告会

市民の皆さんのご協力を得て、今回実施した豊中のタンポポ調査の結果が、近畿全体の集計に先立ちまとまりましたので、１１月１９日午後、環境情報サロンで、その報告会を行いました。



豊中市では４５名の方々にご協力いただき、市内を５０のメッシュに区分して、すべての地域のデータを収集し、採取した全頭花を顕微鏡で花粉分析して在来種を明確にしました。その上で調査データをパソコンに入力して事務局（大阪自然環境保全協会）へ送るとともに、豊中独自に過去のデータと比較しつつ、調査結果を分析して報告書にまとめました。

ここまで出来たのは、春、秋の野草調査をはじめとして、従来から培ってきた市民参加による調査の実績があることが大きな力になっています。

報告会当日は、報告書にもとづき担当者から説明を行った後、出席者全員でお茶を飲みながら、調査の感想や苦労話、疑問に感じたことなどを話し合いました。

今回の調査で特徴的だったのは、何といっても雑種の問題で、調査時点に外来種（雑種）と在来種が混在している場合のデータの採り方などが話題になりました。また在来種が勢力を回復してきたのではないかという感想も寄せられましたが、１メッシュ５ポイントだけの調査であったこともあり、データ上では立証できませんでした。むしろ在来種の生育する地域は都市的緑地、道端、分離帯などに限られてきたようで、５年前の調査結果同様、市の中心部や南部地域ではまったく見られませんでした。タンポポで見る限り、豊中の自然は回復してきたとは言えないのではないでしょうか。

私たちは、この他にも行ってきたさまざまな調査の結果も合わせて、実際の環境行政に生かされ、自然の豊かな豊中になるよう、見守ってゆかなければならないと思っています。

（斎藤明）

## 花と緑のネットワークとよなか　豊中産の米が給食に！

昨年５月地域で採れたものを地域の人が食べようという「地産地消」の取り組みが「地元産青ねぎ」として学校給食へ提供されたことは、ニュースレターでも

お知らせした。その勇気ある取り組みは、浜在住の農家・光久隆晴さんから始まった。しかし決められた大量に納入量のいるシステムでは、１軒では心もとない。そんな時に無農薬でがんばっておられる仲間が一人加わった。蛍池西在住の農家・岸田興次さん。自然部会で活躍中の方である。

ゼロから１もすごい事であるが、１から２もすごい。倍以上の力が蓄えられ、なにより少しでも納入時のリスクを取り除くことができる。食材の種類も「青ねぎ」に「チンゲン菜」が加わり、今年は「菊菜」や「玉ねぎ」も出荷できるよう栽培している。

なんとか、野菜だけでなくお米の提供を考えていただきたいと関係者と話し合いを重ねた結果、学校給食週間（１月２４日から２６日）にあたる２５日、今度は地元のお米が初めて学校給食に登場した。わずか1日とはいえ、２万２千人分のお米は、１７５０kg。すべて豊中産ヒノヒカリ。「とよっぴー」を使ってできたお米もその中に含まれる。地元のお米を使うのは１９８４年から始まった豊中市の米飯給食の歴史の中で初めてという。

そんな記念すべき１月２５日に、市の広報の取材に同行し、農事研究会の会長橋本忠男さんとともに、地元箕輪小学校５年生の給食時間にお邪魔した。橋本さんは走井在住の農家で、３年前から「とよっぴー」を使ってお米を作って下さっているが、実はもう何年も前から地元の小学５年生に自分の田んぼで田植え体験をさせておられる食農教育の元祖のような方である。

さて、まず校長室で市広報、大阪日々新聞、納入業者であるＪＡ北部の広報の方と麻田ＪＡ支店長、橋本さん、校長先生、給食センターの栄養士さん、そして農家岸田さんと筆者が集合。皆さんワクワクするような、なごやかな雰囲気で、「学校給食を見るのは、ホント４０年ぶりくらいですね」と岸田さんは興奮気味。

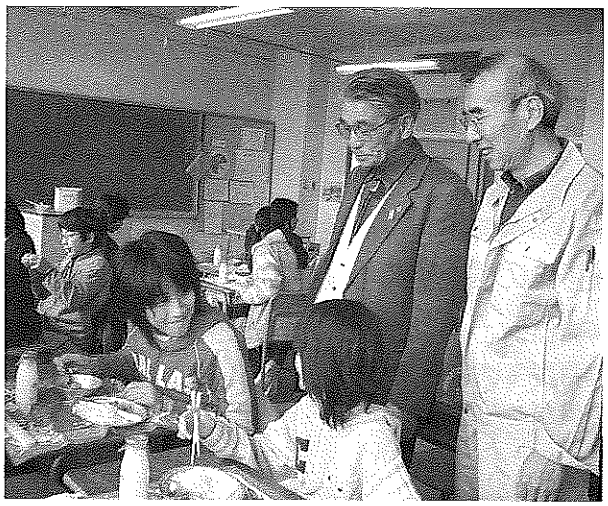
栄養士さんは「今日はお米を炊くのに緊張しました」

市広報の方は「こんなにも早くお米の循環が実現できてよかったですね」など…。

５年生の教室にぞろぞろ入っていき、校長先生に紹介してもらった橋本さんが、「食べている所ごめんね。耳だけこっち向けてね」と簡単に「とよっぴー」のことや豊中の田んぼの話をされ、「今日みんなの食べているご飯は豊中のお米です」と説明。それから、教室の後ろに立っている私たちを子どもたちによくわかるように、それぞれ紹介してくださった。橋本さんは、「今日のお米はふるさとの味、しっかり味わって食べて下さい」と締めくくられた。

橋本さんのお話の途中にも、２杯目のご飯のお代わりをする子どもたちが数人いて、あっという間に食缶が空っぽに。私がそばに座っている女の子に「給食センターの栄養士さんが、うまく炊けるか心配しておられた」とそっと言うと「上手に炊けていますよ」「もちもちしている」「やわらかい」などと答えてくれた。

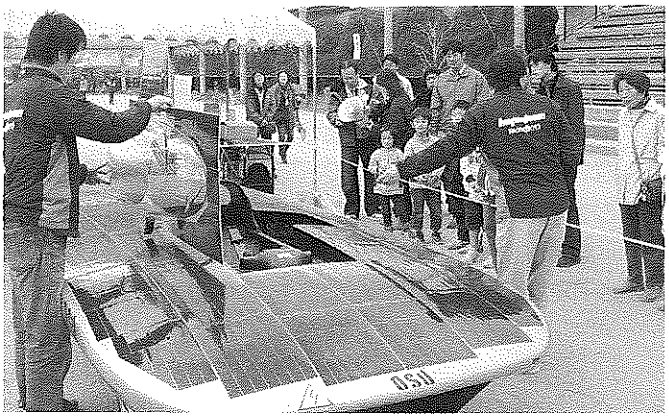
作物をだれがどこでどのように作り、どのようにして自分の食卓まできたのかという「顔の見える関係」は、ほっこりと温かい関係も築くようだ。教室中に漂うあたたかい空気で、胸が熱くなった。



児童を見守る橋本さん、岸田さん

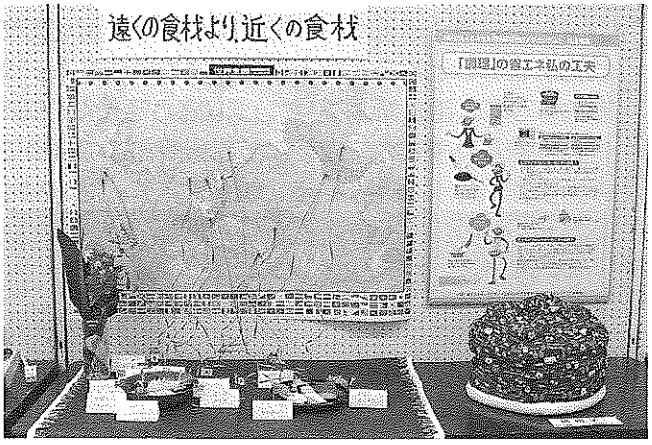
今日をスタートに来年度も豊中産のお米を定期的に子どもたちに食べてもらえるようなしくみが出来ることを期待しながら、足取り軽く学校を後にした。

（高島邦子）



## ソーラーカーを２００人が見学

大阪産業大学のソーラーカー（最高時速は１４０㎞）が豊島公園の多目的広場に来てくれました。１カ月ほど前には中国の大学との共同プロジェクトとしてシルクロードを走ってきた車です。学生さん達と藤田先生の説明があり公園を時速３０㎞～４０㎞で走りました。日本ではまだ公道を走ることができませんが、石油のいらないこんな車がふつうに街を走る日が早く来ればいいですね。




## 遠くの食材より近くの食材

買い物に行って目につくのは生鮮食料品でも輸入の食材が多いことです。寿司のネタや、てんぷらうどんの具がどんな国から来ているか展示していました。

## 子ども達がいっぱい参加

前回の環境展から、学校での環境学習についての発表会を催し、またパネル展示もお願いしました。２日間を通して子ども達の参加がいっぱい。出展でも子どもの楽しめるものがたくさん用意できました。

# とよなか市民環境展2005

## 多くの団体の協力をいただく

５２団体という多くの方々の参加がありました。紙上では紹介できませんでしたが、以下名前のみ記します。

Ｒびんプロジェクト／ＥＳＤとよなか／大阪ガス㈱北東部リビング営業部・天然ガス自動車推進プロジェクト部／大阪北生協環境を語る会・組合員活動部・ともしびボランティアグループ「こぶし」／大阪産業大学／大阪省エネラベルキャンペーン実行委員会／関西雨水市民の会／京セラソーラーＦＣ大阪北／きんき環境館／甲賀愛林クラブ／シャレール東豊中どんぐり山を守り育てる会／しょうないＲＥＫ（協働事業しょうないモデル事業実行委員会）／タカミネ産業㈱／豊島北自然観察教室／豊島北ビオトープクラブ／（社）豊中市シルバー人材センター／豊中市マイバッグ推進協議会／ＮＰＯ法人とよなか市民活動ネットきずな／とよなか消費者協会／小曽根保育所／第四中学校／原田小学校／豊中ライオンズクラブ／西日本衛材㈱／乳幼児メディア・エコ／服部緑地天竺川

## 省エネカー導入の阪急バス

地球環境を守るために、努力している多くの企業を見ることができました。阪急バスもその一例でした。

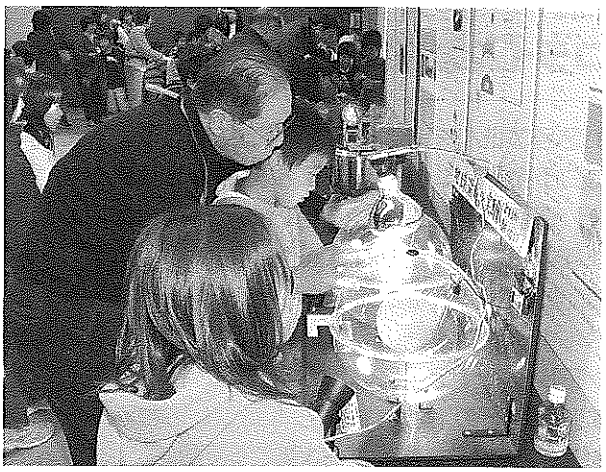
## 環境展をふり返って

１２月２、３日の両日にかけて豊中市立市民会館で開いたとよなか市民環境展２００５は「ちょこっとエコ」をメインテーマに、また「温暖化防止のヒントいっぱい」をサブテーマにして行いました。

２日間を通しての来場者は１８００人で昨年を上回って盛況。出展団体は５２団体（前年は４９団体）、来場した学校は６校（前年と同数）でした。

環境クーポン券の参加店舗は１９店（前年は１８店）、利用者数は１６０人で前年の１３４人から大分多くなりました。

こうしてＮＰＯ法人アジェンダ２１が主催し、豊中市・とよなか市民環境会議が共催、豊中市教育委員会の後援による環境展は年を重ねるごとに“市民環境展”と呼ぶにふさわしい行事として充実した、と自負できるようになってきました。



環境カウンセラー協会の実験

### 地球温暖化の仕組みの実験

小さな地球のまわりに二酸化炭素をいっぱい詰めた球があり、それを明るい電球で温める実験もありました。子ども達が不思議そうに見つめていました。

### 豊中の環境を写真で実証

ボーイスカウトの子ども達が２００枚を超える写真を集め、豊中のまちの、よい環境と悪い環境を実証的に示してくれたのはまさに圧巻でした。

# ３アラカルト

### ペダルを踏んで発電する

子どもたちで賑わったのは、自転車こぎの発電。ミニレールの電車がレールを２周するタイムを計りました。一生懸命にペダルを踏んで新記録をつくったときにはまわりから拍手が湧き、にんまりしていました。

### スタンプラリー

スタンプラリーは全体で１０カ所。５００人が苦労してスタンプを集めてくれました。お土産には大きな大根もあったりして。

周辺「地域の魅力・顔づくりプロジェクト」推進連絡協議会／服部緑地の自然を育てる会／阪急電鉄㈱／阪急バス㈱／文化体験プログラム大昔の貝と海の謎をさぐり隊／ボーイスカウト豊中地区／㈱リーヴス／ウータン森と生活を考える会／とよなか市民環境会議。

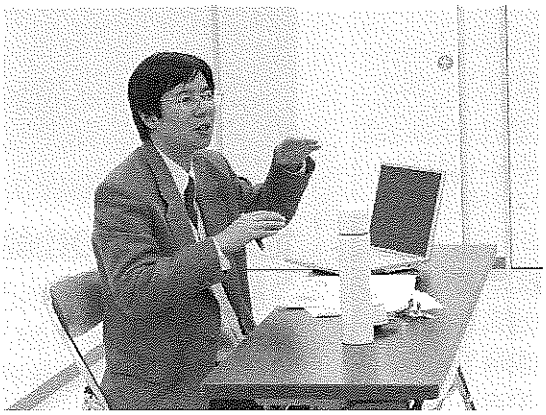
その他、大阪府からは２事業所、豊中市はクリーンランドほか５事業所、そしてアジェンダ２１は４部会と３プロジェクトが、出展と当日の運営に参加しました。

### そのほかに

リサイクル図書の販売では、出展者と来場者の対話ができてよかったことや、堆肥化実験で参加した小曽根保育所の堆肥づくりの展示と、熱くなった堆肥そのものにさわれるのも人気がありました。　（奥野享）

## エコライフカレンダーモニター学習会　食生活を省エネの目で見る

昨年１２月７日の午後、リサイクル交流センターで行ったエコライフカレンダーモニターの学習会は参加者２７人。環境自治体会議から招いた講師中口毅博さんは静かな口調で淡々と話をされました。



省エネルギーセンターの発行したパンフレット「上手にいただきます」と、その下敷とも言える「食生活におけるエネルギー消費調査結果」、実はその調査を実施したのが中口さんの研究室だったのですが、それらを資料にした丁寧な話でした。

毎日の食事は生活の中で欠かすことのできない大きな部分を占めています。それにともなうエネルギー消費も大きな比重を占め、調査は食材の生産と輸送・購入とそのときの容器・買ってからの保存・調理・片付け・そして廃棄、と考えるといっぱいのチェック項目が浮かび上がってきます。

何よりも輸入農産物の多いことは常識になっています。輸入は国産の合計の３．６倍。でも具体的な食材の調査で見えてくるのは、輸入品が１２％、国内産の生鮮食料品でも県外産のものが５６％、県内産が３２％だと言う実態。「遠くの食材よりも、近くの食材」というスローガンが身にしみてきました。また旬のものを食べることが、栄養面はもちろん省エネとしても重要なことが話されました。

買い物の面では、徒歩あるいは自転車で行く人が４３％、自家用車が３９％、その他共同購入などの宅配で、ここでもエネルギー使用が見られました。もちろん容器包装に使われているエネルギーも大量にあります。便利な社会は、使わなくても済ませることのできるエネルギー消費がいっぱいあることに気づかされました。

生活の中での身近な問題として、電子レンジの上手な使用が省エネになること。冷蔵庫の詰め過ぎなどはよく話題になりますが調査ではそれほどでもない様子が分ったこと、また１人世帯では外食の方が省エネになることもあるなど、調査の中で分かってきたいろいろなことが話されました。

調査内容とは直接つながらない話でしたが、宮崎県の綾町の農産物直売場では有機栽培の野菜などがあっと言う間に売り切れるのを目の当たりにしてきた話など、私たちの食生活を本気で考える中口さんの面目躍如たるものが感じられました。　（奥野享）

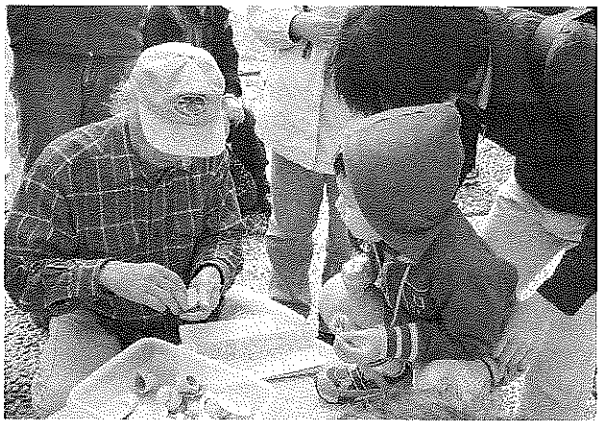
## ちょっといい豊中見つけに行こかウォーク　6千年前、服部西町辺りは海でした

１１月１９日“ちょっといい豊中見つけに行こかウォーク”を行いました。今回は、昔は海だった服部西町界隈。１７人の参加者で環境情報サロンを出発。豊島公園を横切り服部西町へ、その前に講師の清水さん（市教育委員会文化財保護係）から「６千年前この付近は海だった」という話を聞きました。豊島公園からクリーンランドに通じる道が海岸線だったのです。

時代は下がり鎌倉期、ローズ球場観覧席下から発見された土器により水田があったとわかったそうです。

公園を出てニッショー服部西店では、ペットボトル・食品トレー・牛乳パックのリサイクルの話を聞きました。

さて、再び過去の時代、豊島小学校北側の一段高くなった道は旧穂積村集落を洪水から守るための堤防跡だとか。時代はもっと古く５０万年前、大阪大学構内で発見されたマチカネワニの化石の復元模型が「青年の家いぶき」に展示されています。続いて市営服部西住宅の入り口に、ここが海だったことの証拠を見ます。



住宅建設前の発掘で多数の縄文時代の貝が見つかったのですが、その写真がありました。

終り近くなり現在に戻ります。いぶきの南に芝生の広場があり、廃材を使用した歩道、太陽光・風力発電の装置、足の裏のつぼを刺激する石を敷きつめたコーナーや体のバランスを保つコーナーなど、弁当を持って行けば半日は遊べそうな場所でした。（池田一夫）

# アスベスト対策の取り組み状況について

昨年より、アスベストによって、全国各地で被害が続出していることが明らかになってきました。豊中市におきましても、市民の不安解消や健康を守る観点から全庁的に取り組むべき課題として、昨年の８月１日に「豊中市アスベスト対策会議」を設置し、アスベストの総合的な対策の推進に取り組んでいます。また、この対策会議の専門的な作業部会として、次の４つの部会を設置して協議・検討を進めています。

① 「市有施設に係る石綿対策検討部会」･･･市有施設における吹付けアスベスト処理等に関する事項に取り組みます

② 「民間建築物に係る石綿対策検討部会」･･･民間建築物における吹付けアスベスト調査や建築物等の解体等工事に関する事項に取り組みます

③ 「廃棄物に係る石綿対策検討部会」･･･アスベスト含有廃棄物や不法投棄等への適正処理に関する事項に取り組みます

④ 「健康被害・健康相談に係る石綿対策検討部会」･･･市民や職員等の健康不安の解消や安全対策に取り組みます

さて、市有施設のアスベスト使用実態調査及び分析結果では、平成８年までに建てられた２６８施設のうち、現在までに、アスベストを含む吹付け建材を使用している施設が３８施設あることが判明しました。これらの施設につきましては、必要に応じて、すでに緊急工事を行っておりますが、できるだけ早期にすべての対象施設について、除去等の対策工事を行います。

【その他の測定調査結果】

**①室内空気中環境測定**

■ロビーや集会室など市民が出入りする４８施設７６箇所で実施

■その結果は２２施設４４箇所でアスベストが０．６～３．６本／㍑検出

**②一般大気中環境測定**

■千里西町公園・大門公園等の４箇所で測定し、アスベストが０．０４２～０．２１本／㍑検出

※①，②とも大気汚染防止法の規制基準以下（規制基準値は１０本／㍑）

今後は、これまでの豊中市アスベスト対策会議等での検討内容やアスベスト分析調査結果等も十分考慮しながら、総合的な対策を推進するための「アスベスト対策基本方針」を平成１７年度中に策定する予定です。

なお、国におきましても、隙間のない健康被害者の救済のため「石綿による健康被害者を救済する石綿新法案」の成立や、今後の被害を未然に防止するための各種の対策に取り組んでいます。

**【アスベストの相談窓口】**

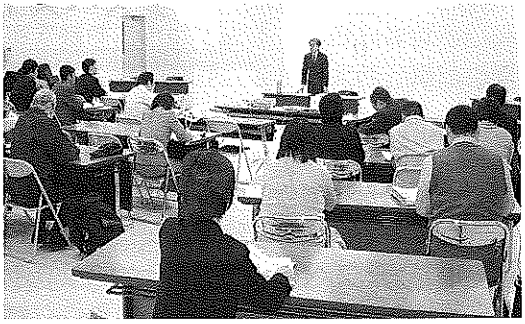
■総合相談窓口：環境部環境政策室　６８５８－２１０５

■健康相談窓口：健康福祉部健康づくり推進課　６８５８－２２８５

## 産業部会ミニシンポジウム「企業・事業所の社会的責任を考える」

最近、企業の倫理や社会に対する責任について問われるような事件等が相次いでいます。また、ＣＳＲ（企業の社会的責任）という言葉も普及し始め、多くの企業ではどう考え、何をしていけばいいのだろうと関心が高まっています。そこで、産業部会では１２月６日にミニシンポジウムとして、関西エコステージ研究会の山本武さんの講演会と、身近な市内の企業や団体の方によるパネルディスカッションを行いました。

山本さんからは、社会的責任について近江商人の売り手に良し・買い手に良し・世間に良しの「三方良し」の考え方からの紹介と、ＣＳＲを成功させるにはその企業の特性に合わせて考えることが重要だというお話がありました。そしてパネルディスカッションでは、山本さんの他、塩野義製薬、阪急バス、豊中市水道局、ＮＰＯとよなかアジェンダ２１からパネラーが参加し、それぞれの取り組みやそれぞれの立場からの考え方が話し合われました。企業・団体として何か少しでも地域社会の一員として役割を果たせるような考え方を持つことが求められているということがわかりました。



（井上和彦）

## 編集室から

▼俳優の辰巳琢郎が「どう稼ぐかよりどう使うかの方が夢がある」と語っていた。どう稼ぐかで失敗したホリエモンへの軽い皮肉。環境展の協力店クーポンは利用者が１６０人で前回より２割増えた。この活動から金を作る(地域通貨)夢を膨らませている。（Ｚ）

▼島熊山の竹伐りに参加した。山は大きな樹木や竹でうす暗く静かだ。でも風や空気は心地よい。太くて長い竹を伐るには苦労した。４ｍに伐り、積み重ねて土に還す。竹伐りもやればできると自信がついた。作業の後のいい汗。山の保全活動にまた参加したい。（Ｈ）

▼いつも通りかかる旧猪名川のあるスポットには小魚がたくさん住んでいる。最近それを目当てに首の長いライトグレーの鳥が異様に増えた。付近の木の枝は止まり木となって、糞で白く染まり何となく元気がない。生態系がバランスを保つのは結構大変なのかも。（Ｙ）

▼我家の洗濯機は今年で２１才。４年前に今の新築のマンションに越してくる時、周りの「もう新しいのにしたら？」と言う声にもめげずに守ってきました。まだまだ元気です。物にもきっと心がある、そんな風に思います。（Ｎ）

▼職場はアスベストへの対応や公害対策など、環境保全という人命に関わる厳しい仕事ですが、問題を解決した時の「ありがとう」の一言が明日への糧です。‘思いを言葉にして伝える’って単純ですが、大きな力を持っていますね。（Ｋ）

▼自転車は環境にも健康にもいいし便利だと思うのですが、車道にも歩道にも走る場所がなく、自転車置き場はどこへ行っても置きにくい。道路はクルマ中心でクルマの駐車場はきちんと作られるのにこの違いは何なのだろう？（Ｊ）

▼アジェンダ事務局がある環境情報サロンではお花がきれいです。メンバーの江藤さんが丹精込めて世話をしています。ある日の朝、花壇の苗が７つも消えていました。？？？　「大切に育てている花です、そっと見てね！」と立て札を立てました。（Ｐ）

《広報チーム》
Ｚ奥野、Ｈ岡、Ｙ小村、Ｎ三宅、Ｋ 根来、Ｊ井上、Ｐ大村

http://www5b.biglobe.ne.jp/~toyonaka/
Ｅメール　ecoshimin@kmd.biglobe.ne.jp

## アジェンダにはあなたの居場所があります

体を動かすのが好き、人と話すのが好き、世話好き、社会の役に立ちたい、仲間を作りたい、やりがいを見つけたい、そんな人集まれ！

環境展　竹工作

環境展　自然工作

環境展　野菜頒布